

かわさきTMO通信

＜毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

特別号 No.3

●川崎駅等周辺イベントを考える イベント連携の新しい兆し イベント評価の試み これからのイベントのあり方

発行元：川崎商工会議所
発行責任者：副会頭 深堀和子
編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
発行日：2012年3月25日
ホームページ掲載用
◆連絡先
TEL：044-540-3904
FAX：044-540-3900
E-mail：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇川崎駅等周辺イベントを考える

川崎駅周辺にはたくさんさんのイベントがあります。イベントの中には秋の『フェスティバルなかわさき』のように10を越えるイベント団体が連携して、共同ポスター作成や大型店も参加してのタッチラリー開催など、イベント色満載で秋の川崎駅周辺への来街を促している試みもあります。

これら秋のイベント内容の特徴は、地域密着的な要素が強いということです。中には仮装を楽しむために全国から人々が集まってくる「カワサキハロウィン」のような存在もありますが、全体的にかなり地域色の強いイベントが多いのが特色です。

地域密着性は、イベント開催にご協力頂いている川崎を代表する地元企業・団体の関わり方にも現れています。例えば、年に1、2回開催される、かわさきTMO主催のイベント団体の情報交換・交流の場『イベントサミット』の場が、その好例です。

今年2月28日に第7回を迎えたこのサミットには、イベント団体はもちろん、協賛企業、地元企業が多数参加し、地域貢献や川崎発展の視点から闊達な意見や提案が交されました。



■第7回イベントサミット開催（川崎市産業振興会館）

○秋のイベント・10・11月

『フェスティバルなかわさき』参加
かわさき阿波おどり・川崎みなと祭り・銀柳街・銀座街秋祭り・いいじやんかわさき・連連つなごうかわさき・酒合戦水鳥の祭・川崎競馬秋まつり・カワサキハロウィン
2011・かわさき市民祭り・サンピアンかわさき感謝まつり・市民と働く者のフェスタ・Buyかわさきフェスティバル

（平成23年度参加・12団体）



2011年秋の『フェスティバルなかわさき』の様子

- タッチラリー抽選会場・アゼリア地下（右）
- 「がんばれ地域の商店街コラボイベント」銀柳街・銀座街秋祭りは専修大学、川崎商業高校とコラボ（中）
- 全国から参加・カワサキハロウィン2011（左）

○かわさきの春のイベント・

4月・5月

かなまら祭り(若宮八幡宮)・かわさき楽大師まつり(川崎大師)・かわさきアジアアンフェスタ・はいさいフェスタ 等

○かわさきの秋のイベント・

10・11月

畜産フェア・京浜ロックフェスティバル・桜本商店街日本のまつり 等

◇イベント連携の新しい兆し

今年度は『東日本応援物産展』開催やフェスティバルなかわさき全体での寄付活動など、「イベントを通じた貢献活動のあり方」を深く考える契機の年となりました。

また、大型店を含む協賛企業のみならずからは、よりイベント活動に協力したいとの申し出や一体感を持たせるための連携提案が寄せられました。

イベント団体としても、資金面、人材面を含め、これまでのやり方を見直し、将来に渡すにふさわしい自立的イベントを目指すには、イベントを核に年間を通して川崎に集客する視点が重要であること、そのためには、春の

イベントとの将来的な連携等も視野に入れて、戦略的に来街を捉える必要があることなどを確認し合いました。

◇イベント評価の試み

昨年度、『イベント連携部会』では、川崎市の依頼により、「中心市街地のイベント評価基準」の検討を行いました。検討メンバーは、大型商業施設、商店街、イベント団体等の代表数名であり、6回の検討会を経て提案書をまとめ、川崎市に提出しました。

検討にあたり、イベント連携部会では、まず、かわさきの中心で開催されるイベントは、川崎市民、来街者等から大きな期待を抱かれる存在であり、地域貢献に対して多大な責任を負っていることを確認しました。

その上で、未来の世代にこれらイベントを通じた資源を渡すことを目的に、評価基準を通してイベント活動が成長すること、発祥も内容も異なるイベントを定量的・定性的な視点から客観的に把握するものさしになる評価項目であることを念頭に置きました。

イベントができたいきさつや創りだした人たちの思いは、それらを後世に伝えていくデータになり、コミュニ

ティの貴重な資料ともなります。

また、統一的なイベントデータが揃うことは、戦略的なイベント動員やイベント展開、イベント団体の連携による広告効果増大等、多数のメリットにもつながることもわかりました。

今年度はひとつの評価例として、『フェスティバルなかわさき』の幹事イベント団体である『連連連・つながりかわさき』について、コーディネーターが評価を試みました。

この評価事例については、今後、イベント団体等に披露し、イベント評価基準の必要性やふさわしい評価項目、実施方法等について広く検討する機会があればと思っています。



■イベントサミットに参加した『川崎純情小町』のみなさん
「かわさきのイベントを応援しま〜す！」

◇これからのイベントのあり方

地域密着アイドル『川崎純情小町』がイベント応援に加わるなど、最近のかわさきのイベント活動には、新たな若い風が吹いてきたようです。

「かわさきは情報提供やPRが下手だ」という意見がよく出てきます。立派なテーマや素晴らしいイベント内容も、人に伝え、知ってもらえなければ、宝の持ち腐れです。

地元住民、周辺地域、関東圏、全国からの来街、さらには海外からの観光客など、どんな魅力あるシーンを提供できるのか、それをどう伝えていくのか、望ましい来街を促すには、それらを包含する俯瞰的な視点と迎え入れるソフト・ハードの双方が不可欠です。

街を歩くことや佇むこと、買い物をする、街角で流れてきた音楽に足を止め、耳を傾けること、この地域の食べ物に出会うこと、イベントで人々と触れ合うこと……。

かわさきを訪れるストーリーの中でイベントの果たす役割やその期待は大きなものです。それにどんな形で応えていくのか、その節目の時が来ているのではないのでしょうか。

(コーディネーター 片岡 由美)